



**Cyclism ech**  
シクリスムエコー  
[www.jcf.or.jp](http://www.jcf.or.jp)

シクリスムエコーNo.91 2002年10月号

第14回アジア競技大会 .....	2	競技大会結果 .....	14
2002年トラック世界選手権 .....	6	2002マウンテンバイク・ジャパンシリーズ閉幕 .....	15
2002年ロード世界選手権 .....	7	訃報 .....	16
2002ツール・ド・北海道国際大会 .....	8	2002年世界室内自転車競技選手権日本代表選手団 ..	16
2002日韓対抗学生自転車競技大会 .....	10	チャレンジ・ザ・オリンピック結果 .....	16
JCFニュース / UCIニュース .....	11	日本新記録 .....	16
2002ロード・トラック・ランキング .....	12	事務局人事 .....	16





14th Asian Games  
BUSAN 2002

## 第14回アジア競技大会

4年に一度開催される「第14回アジア競技大会」は9月30日から10月13日、韓国・釜山にて38競技・419種目、44の国と地域から、約14,000人が参加。日本からは37競技、985名の選手が参加した。その中で自転車競技はロード・トラック・MTBに28名の選手が派遣された。今大会の成績は、前回バンコク大会のメダル獲得数12個(3個・8個・1個)を7個上回る19個(5個・10個・4個)を獲得した。

### トラックレース

トラック競技は10月4日から8日、金井スポーツ公園にアジア大会のために作られた金井自転車競技場で行なわれた。公園にはバスケット、テニス競技場もあり大勢の観客が訪れた。自転車競技場は、屋外の周長333.33m、最大斜度34度、直線53mで、樹脂加工した合板を繋ぎ合わせた走路で、アジア大会後は競輪場として活用される様だ。

#### 男子1kmタイムトライアル

大会最初の決勝種目。今大会直前に行われたコペンハーゲンでの世界選手権に出場してきた大森慶一(北海道)がメダルを目指してスタートしたが、いつもの力強さやスムーズな足の回転が見られず、1分05秒864でLIN(TPE)に0.394秒及ばず銀メダルに終わった。



男子1kmTT銀メダルの大森

#### 女子500mタイムトライアル

スケート短距離界から挑む大菅小百合(長野・三協精機)がメダルを目指してスタートしたが、スタートのタイミングもよく、今までに

女子500mTT銀メダルの大菅



ない一番の走りを見せ日本新記録の36秒030をマークしたが、世界記録保持者のJIANG(CHN)が35秒304を出し、大菅も銀メダルとなった。自転車に慣れれば35秒前半は、実現できるであろう。

#### 男子チームスプリント

当初の予定は、スタート渡辺晴智(JPCA静岡)、2走神山雄一郎(JPCA栃木)、ラスト大森慶一だったが大森の調子があまり良くないので、渡辺スタート、金子貴志(JPCA愛知)が2走、神山をラストに変えて予選に挑んだ。

8ヶ国のエントリー中、1分01秒792を出し1位のタイムで決勝へ進出。ファイナルは、地元韓国と対戦。両国とも予選タイムより1秒近く良くなり、日本チームが1秒00秒927で韓国に1秒差をつけ金メダルを手にした。



金メダルのチームスプリント

渡辺のスタートが絶妙で神山が少し離れ気味になり冷やっとしたが、神山いわく「見せ場を作りました」との事で皆を笑わせていた。1kmで金が取れなくて少し沈み気味だった雰囲気良かった。

#### 男子4km個人追抜競走

飯島規之(JPCA埼玉)がメダルを目指して4分43秒650の予選2位のタイムで1ラウンドに進出したが、ここで痛恨のスタート



男子個抜 銅メダルの飯島規之

失敗。3・4位決定戦にまわってしまった。3・4位決定戦では前半から積極的に行き、1km通過は1分10秒でASKARI(IRI)に1秒差をつけ、安定した走りでもリードを保ち、ゴールでは2秒の差をつけ3位に入り銅メダルを獲得した。世界選手権後のレースにもかかわらず、ベテランの安定性を見せ後輩たちの見本になったと思う。

**女子ポイントレース(24km)**

10月6日に行なわれる予定だったが雨のため順延し、7日に行われた。個人タイムトライアルロードレースで銀メダルを獲得した大塚歩(栃木・A+00)が出場。1ラップ31ポイントでKIM(KOR)に7ポイント差でまたも銀メダルに終わった。



女子ポイントレース銀メダルの大塚(中央)

前半はKIMのペースでレースが進み、中盤は大塚ペースでうまく行っていたが、少し早めにCHPOOKAM(THA)がラップしてしまい、3連続5ポイントしか取れなかった。その後ポイントを増やすことができずKIMにポイントを奪われてしまった。大塚はダッシュ力を高めれば金メダルも夢ではない。

**男子ポイントレース(30km)**

20名のエントリーで日本からは、飯島規之、西谷泰治(広島・日本大学)が出場した。このレースには、アジアNo.1のポイントレーサーのCHO(KOR)も、もちろんエントリーしている。スタートの合図が鳴ると韓国の2名が主導権を取り、最後まで韓国ペースでレースが進んだ。飯島も西谷もアタックするが思うように行かず疲労が見えてくる。後半に西谷のアシストで飯島もポイントを取り28ポイントになったが、CHOには及ばず飯島がまたも銅メダルを手にする。

CHOの走りを見せつけられ、ゴール後悔し涙を見せた西谷には、得るものが有ったようだ。ダッシュ力、持久力、スピード、この3つのレベルアップに向けてトレーニングをしてもらいたい。



男子ケイリン

**男子ケイリン**

競輪界を代表して山田裕仁(JPCA岐阜)と太田真一(JPCA埼玉)がまず予選にチャレンジ。2人とも軽くセミファイナルへ勝ち進んだ。セミファイナルは夜の競技となり、気温も下がったため入念なウォーミングアップを行って挑んだ。山田も太田も積極的に先行し、2人とも1着で決勝戦に駒を進めた。

決勝戦は、8日の最終日に行なわれた。朝10時に決勝戦が始まり日本2人、韓国2人、中国、マレーシアの6人の戦い。山田の絶妙なアシストで太田が先行し、山田が2番手をまわり後ろを寄せ付けず、太田が逃げ切って優勝、山田が2位に入り金銀が2人の手に渡った。

**男子マディソン**

世界選ポイント7位の飯島誠(JPCAスミタラバネロ)と福島晋一(JPCAブリヂストンアンカー)が金を狙って挑むが、ここでもCHO、SUH(韓国)が立ちはだかった。タッチワークの上手さとダッシュ力ははずば抜けていた。日本は思うようにポイントが取れなかったが、中盤に韓国との逃げが決まり1ラップ。どうにか2位に入ることができ、銀



マディソン銀メダルの福島(左)と飯島誠

メダルを取ることができた。飯島 誠も世界選の疲れが少し見られたが、よく頑張った。この種目を日本で多く開催しなければ強くないと思う。

**女子スプリント**

10月4日にフライング200mの予選が始まり、10月8日の最終日までの4日間



女子スプリント銀の太刀川(左)と5位遠藤

に渡りスプリントが行なわれ、太刀川麻也(茨城・スーパー-K.A.LAB)と遠藤友子(大分・鹿屋体育大学)が出場した。予選タイムで太刀川が11秒918で2位、遠藤が12秒280の7位となり1/4ファイナル

で2人が早くも対戦することになってしまった。ここで太刀川がセミファイナルに進出。遠藤は5~8位決定戦となり、12秒656で逃げ切り5位が決定した。太刀川は、2勝1敗で決勝戦に進んだ。決勝はLK(CHN)と対戦したが、ストレート負けで2位となり銀メダル

となった。筋パワーも更に強化すれば11秒前半のタイムが出ると思うし、優勝もできるだろう。

### 男子スプリント

男子スプリントも4日間行ない、集中力を維持するのが大変だったと思う。金子は、チームスプリントと2種目に出場し見事なパフォーマンスを披露してくれた。伊勢崎彰大(JPCA千葉)も金子と共に最終日迄頑張ったと思う。予選の200mは10秒585で金子が1位、伊勢崎は10秒645で4位になり金銀を取れなくなった。勝ち上がりのセミファイナルで2人が戦わなくてはならないからである。

結局伊勢崎が3・4位決定戦に、金子が決勝に進んだ。伊勢崎は、KIM(KOR)と戦い1本目は、先行され負けてしまったが、2本目3本目と先行して2勝し銅メダルを獲得した。金子はNGONNLAM(MAS)と戦い2本先取し、無敗の完全勝利で2つ目の金メダルを獲得した。アジ

男子スプリント金の金子



アを勝ち、次は世界へと目標を高くして筋力アップ、パワーアップのトレーニングをして貰いたい。

今回は全種目でメダルを取ったが、他の国々もかなりの強化を行なっているようだ。日本も今以上の強化をしなければならぬ。アジア大会に参加し多くのサポートをして頂いたスタッフの皆様と各関係団体の皆様に感謝致しまして報告とさせていただきます。

(トラックコーチ 福田 公生)

### [ 競技結果 ]

男子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ			
1	金子 貴志	JPN	
2	NG ONN LAM Josiah	MAS	
3	伊勢崎彰大	JPN	
男子1kmﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ			
1	LIN Chih Hsan	TPE	1:05.470
2	大森 慶一	JPN	1:05.864
3	KIM CHI BUM	KOR	1:07.129
男子ｸﾞﾘｯﾌﾟ			
1	太田 真一	JPN	
2	山田 裕仁	JPN	
3	HYUN BYUNG CHUL	KOR	
男子4km個人追抜競走			
1	KRAVCHENKO Vadim	KAZ	追抜勝
2	SUH SEOK KYU	KOR	OVT
3	飯島 規之	JPN	4:44.004
男子ﾊﾞｲﾄﾞﾚｰｽ(30km)			
1	CHO HO SUNG	KOR	48 p
2	MA Yajun	CHN	30 p
3	飯島 規之	JPN	28 p
10	西谷 泰治	JPN	3 p
男子ﾁｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ			
1	日本(渡辺・金子・神山)		1:00.927
2	KOR		1:01.846
3	TPE		1:02.415
男子ﾏｯｲﾝｸﾞ			
1	KOR		38 p
2	日本(飯島 誠・福島晋一)		11 p
3	HKG		(-1)18 p
男子4km団体追抜競走(日本不出場)			
1	CHN		4:20.753
2	IRI		4:23.108
3	KAZ		4:20.292
女子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ			
1	LI Na	CHN	
2	太刀川麻也	JPN	
3	KU HYUN JIN	KOR	
5	遠藤 友子	JPN	
女子500mﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ			
1	JIANG Yonghua	CHN	35.304
2	大菅小百合	JPN	36.030
3	LEE JONG AE	KOR	37.498
女子ﾊﾞｲﾄﾞﾚｰｽ(24km)			
1	KIM YONG MI	KOR	38 p
2	大塚 歩	JPN	31 p
3	TRI KUSUMA Santia	INA	21 p
女子3km個人追抜競走(日本不出場)			
1	ZHAO Haijuan	CHN	3:46.523
2	MUZIZAH Uyun	INA	3:47.489
3	LIM HYANG JOON	KOR	3:56.240



Cycling

### ロードレース

#### 男子ロードレース(169.4km)

16カ国(最大2名エントリー)28名が参加。日本からは渋谷淳一、鈴木真理の2名が参加、快晴の中10時にスタート。

スローペースでスタートした1周目の後、2周目に入り渋谷が単独でアタック。徐々に後続集団とのタイム差を広げ独走する。

後続集団からの逃げを待ち、逃げ切る作戦に出た渋谷だったが、集団からの逃げがなかなか決まらず独走が続く。3周目に入りウズベキスタンのKrushevskiyが集団から飛び出し、89km地点で渋谷に追いつき2名の逃げ態勢となった。

独走で力を使いすぎた渋谷が、上り坂でKrushevskiyに引き離され、96km地点で集団に吸収される。

5周目に入りメイン集団から数名の選手が飛び出し、独走していたKrushevskiyに追いつきトップ集団は5名。UCIランキング50番台に入っているカザフスタンのVinokourouを筆頭に、Krushevskiy(ウズベキスタン)、Vakke(キリギススタン)の3名はプロ選手。それに香港のワンカンポ、イランのミズバニーの5人が後続集団を一気に引き離し最終周回に入る。

アタックの掛け合いとなったところでミズバニーがバンクで遅れ、東北アジア対ワンカンポの戦いとなり、3対1の勝負は終始積極的な走りを見せたKrushevskiyが他の選手を引き離し優勝。

#### 女子ロードレース(96.8km)

前日の激しく降った雨も上がり穏やかな天気の中、10ヶ国(最大エントリー2名)15名が参加し10時スタート。

スローペースでゴール勝負になると日本チームは金の可能性が低くなるため、韓国、中国を崩し、逃げのレース展開にしようとしたが、韓国の徹底したマークに思うように集団を崩す事が出来ない。

アシストに回った大塚が集団のペースが落ちるたびにアタック。ライバルチームの選手に足を使わせ、沖が集団から逃げやすくする。

沖がアタックし数人の選手と集団から抜け出すのが、他の選手が全く前に出ないため、再び集団走行を繰り返す。

最終周、集団を崩す事が出来ないままゴール勝負となり、追い風のゴール勝負は、キムヨンミンが抜群のスプリント力で優勝。

## マウンテンバイク

マウンテンバイクは10月10日から13日の日程で機張マウンテンバイクコースで行なわれた。日本選手団は事前に現地でトレーニングが出来るという話で予定より早く日本を出発した。ところが、実際現地に入ってもタイムスケジュール等が出ず、毎日現場での対応となった。

DH、XCのコースが50%位しかインスペクションが出来ず、大会側より選手にトレーニングのタイムスケジュールの連絡がないため、十分な調整が出来ないまま選手共々ストレスが溜まってくる。しかし、選手たちはこのような状況の中でも決勝に向けてそれぞれがトレーニングを続けた。

10月10日DHが行われ、シーディングランが始まり、男女共に1、2位で通過し午後の決勝に期待がかかる。午後の決勝は女子からスタート。末政実緒(兵庫)が圧倒的な強さを見せ金、増田まみ(埼玉)も銀と2個のメダルで好発進。続いて男子は1位に遅れること

0.36秒で塚本が2位、0.45秒差で内嶋が3位で、男女合わせて4個のメダルを手にした。

10月12日XC女子が行われ、南部博子(長野)と中込由香里(長野)がスタートしたが、中国の2人のハイペースに付いて行けずこの2名の後ろを走る。ハイペースがたたり1名が遅れはじめる。我慢の走りをしていただ中込は2位に上が

り、1位中国、2位中込でゴール。また南部はスタート直後の体調不良でいつもの走りが出来ず4位でゴール。

10月13日最終日XC男子が行われた。竹谷賢二(千葉)、鈴木雷太(長野)が出場。スタートから中国の選手の前を走る作戦を出したが、それよりもカザフスタンがロケットスタートを決めてハイペースで先頭を走る。日本選手の2名



男子XC金の竹谷

はペースを乱されたが、竹谷の冷静な判断で後半にトップに出て、2位に大差を付けて見事金メダルに輝いた。一方遅れた鈴木も4位まで順位を上げてゴール。MTBは6個のメダルを獲得。

サポートしていただいた監督、ドクター、マッサー、メカニシャンのご協力ありがとうございました。

(MTBコーチ 杉山 喜一)

## [ 競技結果 ]

### DH男子

1	CHUNG HYUNG RAE	KOR	3:54.330
2	塚本 岳	JPN	3:54.800
3	内嶋 亮	JPN	3:54.890



### DH女子

1	末政 実緒	JPN	4:10.550
2	増田 まみ	JPN	4:34.860
3	SUSEANTY Risa	INA	4:36.080



### XC女子

1	MA Yanping	CHN	1:42:48
2	中込由香里	JPN	1:43:51
3	ZHANG Na	CHN	1:46:27



4	南部 博子	JPN	1:49:12
---	-------	-----	---------

### XC男子

1	竹谷 賢二	JPN	1:47:03
2	ZHU Yongbiao	CHN	1:49:36
3	LI Fuyu	CHN	1:49:37



4	鈴木 雷太	JPN	1:51:06
---	-------	-----	---------

金メダル獲得に拘り、終始アタックを繰り返す積極的な攻めの展開に徹底したが、勝負に勝つ事が出来なかった。

(ロードコーチ 高橋 松吉)

## [ 競技結果 ] 9/30 ~ 10/3

### 女子個人タイムトライアル ( 24.2km )

1	LI Meifang	CHN	34:24.82
2	大塚 歩	JPN	35:31.31
3	LEE EUN JOO	KOR	35:38.65

### 男子個人タイムトライアル ( 48.4km )

1	TETERIOUK Andrei	KAZ	1:02:11.05
2	VAKKER Evgeny	KGZ	1:02:58.05

3	KRUSHEVSKIY Sergey	UZB	1:03:41.86
6	岡崎 和也	JPN	1:05:58.34

### 女子個人ロードレース ( 96.8km )

1	KIM YONG MI	KOR	2:47:19
2	MUZIZAH Uyun	INA	2:47:19
3	JIANG Yanxia	CHN	2:47:19
5	沖 美穂	JPN	2:47:19
15	大塚 歩	JPN	2:50:41

### 男子個人ロードレース ( 169.4km )

1	KRUSHEVSKIY Sergey	UZB	4:17:59
2	VINOKOUROU Alexandre	KAZ	4:18:24
3	WONG Kam Po	HKG	4:19:17
10	鈴木 真理	JPN	4:25:42
	渋谷 淳一	JPN	DNF



## 2002年トラック世界選手権 飯島 誠 ポイントレース 7位!



今年の大会は、デンマークのコペンハーゲンにあるバルレップ・シーメンズアリーナで約50年ぶり2回目の開催となり、連日大勢の観客が応援にかけつけた。ここコペンハーゲンはアンデルセンが移り住んだ町として有名で、マッチ売りの少女や人魚姫の童話を創作した地でもある。また、歴史的な建造物が多く日本から来る観光客も多い。

日本選手団は、9月21日午前11時55分成田発のスカンジナビアエアラインでデンマークへ旅立った。現地時間午後4時30分にコペンハーゲンの空港に着いた。日本との時差は、7時間あり1日が長かった。翌日から軽いトレーニングを始め時差の調整を行なった。

9月22日から24日迄指定時間にバンクでトレーニングを行ない、リカバリーでロードを行なった。この競技場は室内板張り、250m、最大斜度44度である。

9月25日から29日迄の5日間の大会が始まった。参加国35ヶ国、男子232人、女子77人がエントリーし、国の名誉のため競技を行なった。

### ケイリン

予選3組に堤 洋 (JPCA徳島) が出場。2着迄が準決勝へ進むことができるが、惜しくも3着のため敗者復活戦にまわることになる。1着はJ.Fiedler (GER) だった。敗者復活戦は堤がスタートで前を取り先行するが、J.Dajka (AUS) に捲られ4着に沈み今年も決勝進出はならなかった。優勝はJ.Dajkaが勝ち取った。

### 1kmタイムトライアル

タイムトライアルは24人のエントリーで行なわれ、井上昌己 (JPCA長崎) が5番目にスタートし、1分04秒353で

14位に、大森慶一 (北海道) は、15番目にスタートしたが1分04秒500で15位に終わった。両者ともにスピードの差を痛感した。

優勝はC.Hoy (GBR) が前年の覇者A.Tournant (FRA) を0.001秒の差で下し初の栄冠をものにした。

### スクラッチ15km

4km個人追い抜きを欠場し、このスクラッチにかけた飯島規之 (JPCA埼玉) だったが、抜け出した4人が30周で集団をラップしてしまい、力を出せずに12位に終わった。優勝は、F.Marvull (SUI) の手に収まった。

### スプリント

200mのタイムトライアルに永井清史 (岐阜) がいどみ、10秒542で26人中14位のタイムで予選を通過した。200mの1位はJ.STAFF (GBR) で10秒130だった。永井は1回戦でS.Eadie (AUS) に敗れ、敗者復活戦にまわった。敗者復活戦ではA.Kiksia (LAT) に10秒999でゴールされ、永井のスプリントは終わった。決勝はオーストラリア同志の戦いとなり、J.Dajkaを2対1でS.Eadieが押さえ優勝した。

### チームスプリント

15ヶ国のエントリーのなか、6組目にドイツと対戦し、1走に長塚智広 (JPCA茨城) 2走永井、3走大森がいどみ力走したが、長塚のスタートに2人が離れ予選通過とは行かなかった。結果は、47秒000で11位に終わった。



チームスプリントのスタート

### ポイントレース(30km)

昨年のベルギー大会で飯島規之が8位入賞したこのポイントレースに、今回は飯島 誠 (JPCAスミタラバネロ) がチャレンジした。24人がエントリーし250mのバンクを120周するハイスピードのレースが展開された。今年ルールが改正され1ラップすると10ポイントが加算されることになったが、今回は20ポイントを加算する特別ルールで行なうことに決まった。このためハイペースなレースになり、平均時速は約



ポイントレース7位の飯島 誠

52km/hとなった。飯島は1ラップ20ポイントに照準を合わせ、26周目に5人のグループに混ざりラップに成功したが、中盤から次のラップのグループに入れず2ラップとは行かなかった。しかし、7回目のスプリントポイントで1位通過、5ポイントを取った。最終回ではアクシデントを避け4位でゴールし、1ポイントを獲得し合計26ポイントで7位に入り、飯島規之に次いで今回も入賞することができた。誠、良く頑張った。この大会のサポーター、メカの藤原さん、マッサージの柳さん、通訳の増田さん、チームドクターの久留さん、応援コーチの渡辺本部長、ありがとうございました。また、各関係団体のご支援・ご協力に感謝致しますと共にご報告とさせていただきます。(福田 公生)

競技結果はP.9へ掲載



## 2002年ロード世界選手権



2002年ロード世界選手権は10月8日から13日まで6日間、個人ロードレースがベルギーのゾルダ - に在るサーキット場とその外周を使ったコース(1周12.8km)個人タイムトライアルがハッセルトの町からゾルダ - までの平坦コースで行なわれた。

日本チームは個人ロードレースに、沖 美穂(エリート女子)、別府文之(U23)、小岩大介・池田文志・舟木 誠(ジュニア男子)の5名、個人タイムトライアルにはジュニア男子の池田文志が参加。

平坦コースで行なわれた、個人ロードレースは各カテゴリー共に逃げが決まらず、大集団でのレース展開となり落車の多い大会であった。

今年も世界選手権前に現地で合宿したジュニアを含め、アンダー23は積極的な走り、レベルの向上が見られ今後期待の持てるレース内容であった。

<個人タイムトライアル>

**ジュニア男子** 23.2km 晴10

10月9日、69名が参加。池田は36番目、12時52分30秒(1分30秒間隔)のスタート。

起伏のない平坦なコースで、東からの風が前半強く思うようにペースが上がらず苦しむが、川沿いの追い風で踏み返し平均速度45km/hで走りきり、38位でゴール。

<個人ロードレース>

**アンダー23** 166.4km)くもり10

サーキットコースを使った、300mの緩い上りがある平坦コース(1周

12.8km×13周)166.4km。175名が参加し、12時30分にスタート。

スタート直後Olsson(スウェーデン)がアタック、集団から抜け出し速いレース展開となる。

2周目、Olssonを追って3名の選手が集団から抜け出し4名のトップ集団となり30秒前後で逃げるが、6周目に集団に吸収される。

力を温存していた別府、7周目にアタックし逃げを試みるが、集団が1列棒状となり抜け出すことが出来ない。

9周目、2名の選手が集団から抜け出し、これに6名が追走、8名のトップ集団となりメイン集団を引き離す。

逃げ切るかと思われた8名の逃げも

すで通過。日本選手は集団の後方を走っているが余裕で付いてる。

3周目3名の逃げが決まり集団とのタイム差30秒前後で逃げる。

5周目メイン集団からアタックが繰り返され、6周目逃げていた3名がメイン集団に吸収されると同時に10名の選手が集団から抜け出し逃げる。

アタックが繰り返され混戦状態となった最終周、3名の選手が抜け出しゴール勝負を制したのはGerard Amaud。大集団の4位争い、ゴール直前の落車をかわしながらも小岩が21位でゴール。

海外遠征初レースが世界選手権となった舟木は終始冷静な走りを見せ、1周目で落車した池田は、自転車の調子悪くなり苦戦するが、ジュニア全員メイン集団で完走。

**エリート女子** 128km)くもり8

1周目のラップを取った沖、集団の前で走りレースの展開を見る、アタックがあるものの、前半は集団のままレースが展開された。

6周目の登り坂で、アタックが始まると同時にテレビ画面に、沖がフロントギヤのチェーンを外し直している場面が映る。

アタックした選手を追い集団は最速状態1列棒状、遅れた沖を引き離すかのようにペースが上がる。

沖は独走となり集団を追うが、集団のペースが速く復帰することが出来ずにリタイアした。

アタックの掛け合いから、ラスト3周、3名の選手が集団から抜け出し逃げる。

最終周、15秒差を追い後続集団からSusanne Ljungskog(スウェーデン)が飛び出す。ラスト600m、先頭3名の牽制のスキに追いつき、そのままゴールスプリントとなり、Susanneの劇的な逆転優勝で終わった。

沖は予期せぬトラブルでリタイアしてしまっただが、それまでの走りは十分に評価できる走りであった。

(高橋 松吉)

競技結果はP.9へ掲載



12周目でメイン集団に吸収され、大集団のまま最終周に入る。

ゴール前大きな落車があり、大混戦ゴール勝負を制したのは、抜群のスプリント力を見せ5番手から差込んだChicchi Francesco(イタリア)。

別府は今年フランスで活動しヨーロッパのレースを経験、積極的なレース展開で、メイン集団で完走した。

**ジュニア男子** 128km)くもり8

1周目から落者が続出、後方にいた池田が巻き込まれ集団から遅れるが直ぐに集団に復帰、1周17分と速いペー

# 2002 ツール・ド・北海道国際大会



1987年、日本初の本格的ステージレースとして誕生、通算16回目を迎える「ツール・ド・北海道」。

UCI(国際自転車競技連合)公認カテゴリー2-6から2-5へランクアップして3年目の今回は、9月11日釧路市で開幕、9月16日札幌市真駒内公園での最終ステージ・クリテリウムで閉幕する。

知床峠にフィニッシュする第1ス

テージから第4ステージまで、タウンtoタウンのコースは連日険しい山岳ポイントが設定され、見応え十分。「北海道の屋根」日高山脈を跨いだ736kmにおよぶ熱き戦いが繰り広げられた。

参加チームは海外よりアイルランド、カナダ、韓国、オランダ、ジャイアント(TPE)、イランの6チームを含む20チーム。ロードレースはエースを勝た

せるためチームが一丸となって戦う。

今大会の個人総合優勝は団体総合も制した日本舗道のシモーネ・メーリ。2位は狩野智也(シマノ)、3位は岡崎和也(日本舗道)であった。なお、大会最終日市民レースに続き「特別・爆笑レース」が行われた。途中棄権となった選手や大会関係者や元・大物選手らが趣向を凝らして参加、また一味違ったツール・ド・北海道が大会を盛り上げた。



個人総合優勝のモーリ・シモーネ

← [競技結果]

1 岡崎 和也 日本舗道	3:12.01	8 鈴木 真理 シルル-シグ	4:17:52	6 水谷 壮宏 ブリヂ ストアノカ	1:25:36
2 ビンカト アドリ- カダ	3:13.38	9 真鍋 和幸 ミヤバル	4:17:52	7 鈴木 真理 シルル-シグ	1:25:36
3 飯島 誠 スミタバ 和	3:14.29	10 新保 光起 愛三工業	4:17:52	8 渋谷 淳一 ブリヂ ストアノカ	1:25:36
4 広瀬 敏 日本舗道	3:14.62	第3ステージ		9 飯島 誠 スミタバ 和	1:25:36
5 水谷 荘宏 ブリヂ ストアノカ	3:14.64	1 鈴木 真理 シルル-シグ	4:17:41	10 岡崎 和也 日本舗道	1:25:36
6 坂口 博 愛三工業	3:14.95	2 ペラスドミク カダ	4:17:41	個人総合時間順位	
7 藤野 智一 ブリヂ ストアノカ	3:16.23	3 岡崎 和也 日本舗道	4:17:44	1 モーリシエネ 日本舗道	18:20:54
8 大内 薫 シルル-シグ	3:17.34	4 ペラスドミク カダ	4:17:44	2 狩野 智也 シルル-シグ	18:21:23
9 シェバ-ド クリス カダ	3:17.35	5 グリフィン ボール アイルランド	4:17:44	3 岡崎 和也 日本舗道	18:22:15
10 今西 尚志 シルル-シグ	3:17.60	6 丸丸ケイ 枋ダ	4:17:44	4 テリック ミハル 日本舗道	18:22:15
第1ステージ		7 枋カデグイット アイルランド	4:17:44	5 鈴木 真理 シルル-シグ	18:22:17
1 モーリシエネ 日本舗道	4:26:46	8 今西 尚志 シルル-シグ	4:17:44	6 今西 尚志 シルル-シグ	18:22:21
2 狩野 智也 シルル-シグ	4:27:13	9 真鍋 和幸 ミヤバル	4:17:44	7 新保 光起 愛三工業	18:22:25
3 橋川 健 ブリヂ ストアノカ	4:27:44	10 盛 一大 日本大学	4:17:44	8 広瀬 敏 日本舗道	18:22:34
4 テリック ミハル 日本舗道	4:27:55	第4ステージ		9 田中 光輝 愛三工業	18:22:39
5 鈴木 真理 シルル-シグ	4:28:33	1 岡崎 和也 日本舗道	3:49:35	10 柿沼 章 冨仁-ズ・タバ イ	18:22:40
6 広瀬 敏 日本舗道	4:28:33	2 鈴木 真理 シルル-シグ	3:49:35	団体総合時間賞	
7 岡崎 和也 日本舗道	4:28:33	3 丸丸ケイ 枋ダ	3:49:35	1 日本舗道	55:05:32
8 今西 尚志 シルル-シグ	4:28:33	4 グリフィン ボール アイルランド	3:49:35	2 シルル-シグ	55:06:29
9 田中 光輝 愛三工業	4:28:33	5 ペラスドミク カダ	3:49:35	3 イソ	55:08:58
10 新保 光起 愛三工業	4:28:33	6 広瀬 敏 日本舗道	3:49:35	個人総合ポイント賞	
第2ステージ		7 真鍋 和幸 ミヤバル	3:49:35	1 岡崎 和也 日本舗道	82 p
1 ペラスドミク カダ	4:17:44	8 飯島 誠 スミタバ 和	3:49:35	2 鈴木 真理 シルル-シグ	79 p
2 山本 雅道 シルル-シグ	4:17:52	9 田中 光輝 愛三工業	3:49:35	3 ペラスドミク カダ	72 p
3 今西 尚志 シルル-シグ	4:17:52	10 今西 尚志 シルル-シグ	3:49:35	個人総合山岳賞	
4 橋川 健 ブリヂ ストアノカ	4:17:52	第5ステージ		1 狩野 智也 シルル-シグ	29 p
5 岡崎 和也 日本舗道	4:17:52	1 田代 恭崇 ブリヂ ストアノカ	1:25:27	2 ペラスドミク カダ	25 p
6 丸丸ケイ 枋ダ	4:17:52	2 枋カデグイット アイルランド	1:25:27	3 モーリシエネ 日本舗道	24 p
7 ビンカト アドリ- カダ	4:17:52	3 新保 光起 愛三工業	1:25:30		
		4 今西 尚志 シルル-シグ	1:25:30		
		5 ペラスドミク カダ	1:25:32		



P.6-7より

[競技結果]

2002年トラック世界選手権

男子ポイントレース

1 NEWTON Chris	GBR	76 p
2 STOCHER Franz	AUT	50 p
3 CURUCHET Juan	ARG	49 p
7 飯島 誠	JPN	26 p

男子ケイリン

1 DAJKA Jobie	AUS	
2 VILLANUEVA TRINIDAD José Anton	ESP	
3 WOLFF Rene	GER	
堤 洋	JPN	1回戦敗退

男子スプリント

1 EADIE Sean	AUS	
2 DAJKA Jobie	AUS	
3 ROUSSEAU Florian	FRA	
永井 清史	JPN	1回戦敗退

男子1kmタイムトライアル

1 HOY Chris	GBR	1:01.893
2 TOURNANT Arnaud	FRA	1:01.894
3 KELLY Shane	AUS	1:02.128
14 井上 昌己	JPN	1:04.353
15 大森 慶一	JPN	1:04.500

男子スクラッチ (15km)

1 MARVULLI Franco	SUI
2 GIBB Tony	GBR
3 STEINWEG Stefan	GER
12 飯島 規之	JPN

男子チームスプリント

1 GBR	44.370
2 AUS	44.508
3 GER	44.838
11 日本 (長塚・永井・大森)	47.000

2002年ロード世界選手権

個人タイムトライアル

男子ジュニア (23.2km)	
1 IGNATIEV Mikhail	RUS 28:30.37
2 JAMIESON Mark	AUS 28:40.74
3 NIBALI Vincenzo	ITA 28:56.36
38 池田 丈志	JPN 30:35.78

男子U23 (33.2km)

1 VAITKUS Tomas	LTU 38:40.80
2 BESPALOV Alexandr	RUS 39:22.50
3 PAULINHO Sergio	POR 40:09.77

女子ジュニア (11.2km)

1 ZUGNO Anna	ITA 15:54.21
2 GUDERZO Tatiana	ITA 16:00.75
3 HECHT Claudia	GER 16:01.42

女子ポイントレース (23.2km)

1 ZABIROVA Zoulfia	RUS 30:02.62
2 BRÄNDLI Nicole	SUI 30:17.33
3 THÜRIG Karin	SUI 30:18.28

男子ポイントレース (40.4km)

1 BOTERO ECHEVERRY	COL 48:08.45
2 RICH Michael	GER 48:16.69
3 GONZALEZ ARANZABAL	ESP 48:25.60

個人ロードレース

男子U23 (166.4km)	
1 CHICCHI Francesco	ITA 3:36:28
2 GUTIERREZ Francisco	ESP 3:36:28
3 LOOSLI David	SUI 3:36:28
43 別府 史之	JPN 3:36:28

女子ジュニア (76.8km)

1 DE GOEDE Suzanne	NED 1:59:00
2 STUMPF Claudia	GER 1:59:00
3 HOLER Monica	SWE 1:59:00

男子ポイントレース (256km)

1 CIPOLLINI Mario	ITA 5:30:03
2 MCEWEN Robbie	AUS 5:30:03
3 ZABEL Erik	GER 5:30:03

女子ポイントレース (128km)

1 LJUNGSKOG Susanne	SWE 2:59:15
2 BRÄNDLI Nicole	SUI 2:59:15
3 SOMARRIBA ARROLA J.	ESP 2:59:15
沖 美穂	JPN DNF

男子ジュニア (128km)

1 GERARD Arnaud	FRA 2:50:17
2 VASTARANTA Jukka	FIN 2:50:17
3 SANDERSON Nicolas	AUS 2:50:17
21 小岩 大介	JPN 2:50:26
55 池田 丈志	JPN 2:50:26
117 舟木 誠	JPN 2:50:26



## 2002 日韓対抗学生自転車競技大会



大会は、9月22日、時折小雨の降る川崎競輪場で行なわれた。8回目となる今年からは日韓親善というタイトルを改め、日韓対抗として、より競技色の強い大会となった。

まず、スプリント予選で速さを見せたのは、Yang Hee Chunで、他を大きく引き離し、ただ1人10秒台をマークした。女子ではLee Min Hyeが他を圧倒した。

タイムトライアルでは、北津留翼が好スタートを見せた。

個人追い抜きのLim Byung Hyunは、予選ではタイミングが合わずフライングしていたが、決勝では実力を発揮した。

ケイリンでは、昨年の大会で必要以上の競走妨害をしたとのことで、前日の監督会議の中でしつこく注意をされていたため、問題はなかった。序盤から韓国3選手が先頭でスプリント状態になり、3番手につけていたBang Hee Sungが追い上げて先着した。3位には、序盤で最後尾にいたKim Won Jungがすばらしい追い上げをみせて入った。

女子12kmポイントレースは、前半でGu Sung Eunのスピードが目だったが、後半になって、Seo Ji Hwaが一人で逃げる形となった。男子の24kmでは、西谷泰治が前半から積極的に飛ばして1着通過を重ねた。中盤では5名の集団でラップを成立させた。後半に入っても果敢な逃げを見せて、再度4人で

ラップを成立させた。

団体追い抜きは、韓国優位の前評判であったが、前半で一人遅れて3人となったことが勝敗を分けた。

チームスプリントは、前日の練習から合わせてきた日本の高校生3選手が、息の合った走りを見せた。

終わってみると、男子では、日韓両国共に種目によって勝敗が分かれており、実力伯仲といえるが、女子は全種目で韓国が優勝という実力差を痛感するものであった。(藤原 康弘)

## [ 競技結果 ]

## 女子スプリント

- 1 李 敏 慧 体育高等学校
- 2 篠崎 新純 千葉経済大学附属高校
- 3 具 聖 恩 大邱東部工業高等学校
- 4 中尾 友美 筑波大学

## 女子500mタイムトライアル

- 1 李 敏 慧 体育高等学校 38.827
- 2 篠崎 新純 千葉経済大附属高 38.857
- 3 陸 志 英 仁川体育高等学校 39.211
- 4 中尾 友美 筑波大学 39.541

## 女子2km個人追抜競走

- 1 鄭 丞 娟 体育高等学校 2:43.801
- 2 徐 智 花 昌原慶一高等学校 2:47.858
- 3 松尾 亜美 日出暘谷高校 2:46.539
- 4 坂井田理沙 八戸大学 2:46.584

## 女子チームスプリント

- 1 韓 国 1:31.193
- 2 日 本 中尾・斎藤・篠崎 1:32.873

## 女子ポイントレース(12km)

- 1 徐 智 花 昌原慶一高等学校 15p

- 2 具 聖 恩 大邱東部工業高等学校 14p
- 3 坂井田理沙 八戸大学 14p
- 4 斎藤 綾 順天堂大学 11p
- 5 陸 志 英 仁川体育高等学校 6p
- 6 鄭 丞 娟 体育高等学校 1p

## 男子スプリント

- 1 北津留 翼 豊国学園高校
- 2 金 元 楨 木川高等学校
- 3 橋本 強 松山聖陵高校
- 4 崔 正 旭 同和高等学校

## 男子スプリント1kmタイムトライアル

- 1 北津留 翼 豊国学園高校 1:07.761
- 2 橋本 強 松山聖陵高校 1:09.355
- 3 崔 正 旭 同和高等学校 1:09.640
- 4 金 東 勳 蔚山農所高等学校 1:09.916

## 男子スプリント3km個人追抜競走

- 1 張 仙 載 大田体育高等学校 3:34.943
- 2 青木 康貴 岐南工業高校 3:45.435
- 3 身崎 琢磨 東北高校 3:48.513
- 4 崔 枝 允 全羅高等学校 3:50.088

## 男子スプリントチームスプリント

- 1 日 本 北津留・橋本・荻原 1:20.497
- 2 韓 国 1:23.565

## 男子スプリント

- 1 梁 天 韓国体育大大学校
- 2 李 在 玉 昌原大大学校
- 3 小堺 浩二 京都産業大学
- 4 樫山新太郎 日本大学

## 男子1kmタイムトライアル

- 1 竹澤 浩司 日本大学 1:08.180
- 2 方 希 成 韓国体育大大学校 1:09.048
- 3 西谷 泰治 日本大学 1:09.263
- 4 李 在 玉 昌原大大学校 1:11.909
- 000 川村 崇 早稲田大学 1:10.320

## 男子4km個人追抜競走

- 1 林 炳 賢 昌原大大学校 4:57.628
- 2 竹澤 浩司 日本大学 5:01.817
- 3 浦門 義人 中京大学 5:06.077
- 4 李 成 願 安東大大学校 5:15.970

## 男子(オープン)ケイリン

- 1 方 希 成 韓国体育大大学校
- 2 李 在 玉 昌原大大学校
- 3 金 元 楨 木川高等学校
- 4 小堺 浩二 京都産業大学
- 5 樫山新太郎 日本大学
- 6 梁 熙 天 韓国体育大大学校

## 男子4km団体追抜競走

- 1 日 本 西谷・竹澤・浦門・小堺 4:45.341
- 2 韓 国 4:54.341

## 男子(オープン)ポイントレース(24km)

- 1 西谷 泰治 日本大学 59p
- 2 張 仙 載 大田体育高等学校 40p
- 3 身崎 琢磨 東北高校 39p
- 4 青木 康貴 岐南工業高校 37p
- 5 崔 枝 允 全羅高等学校 21p
- 6 林 炳 賢 昌原大大学校 8p


**JCFニュース**

## ヘルメットの新規公認

公認番号	公認日付	公認申請社	製造社	形式名	公認条件
7-199	2002/9/25	山本光学(株)	ジロ	イーツー(E2)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること
7-200	2002/9/25	山本光学(株)	ジロ	エクリップス(ECLIPSE)	
7-201	2002/9/25	山本光学(株)	ジロ	ニューモ(PNEUMO)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカントリー シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること

山本光学(株) 〒577-0056 大阪府東大阪市長堂3-25-8 06-6783-1109


**UCIニュース**
**2003年トラック競技に関する国内連盟あて通知**

## 2003年トラック・ワールドカップ

- 第1戦 2003年2月14～16日 モスクワ(ロシア)
- 第2戦 2003年3月14～16日 アグアスカリエンテス(メキシコ)
- 第3戦 2003年4月11～13日 ケープタウン(南アフリカ)
- 第4戦 2003年5月16～18日 シドニー(オーストラリア)

## 2003年エリート世界選手権大会

2003年7月30日～8月3日 シェンツェン(中国)

UCI理事会は6月の会議において、2003年世界選手権大会は2004年ワールドカップ第5戦のポイントとしてみなすことを決定した。

## 2003年ジュニア世界選手権大会

2003年8月20日～24日 サンクト・ペテルブルグ(ロシア)

**ハッセルト(ベルギー)におけるUCI理事会決定事項に関する発表のトラック競技に関わる部分の抜粋**

トラック競技の世界的発展計画の枠組において、理事会は2005年より競技日程の構成を修正することを決定した。

UCIの計画では年間を通じた活動を見越し、両半球において夏季および秋季に開催される国内、国際および大陸競技大会は、11月から3月の間に行われるワールドカップと世界選手権大会に先立って行われる。

全世界的な自転車競技場の喜ばしい数的増加により、UCIはこの戦略が、魅力的で釣り合いが取れたこの運動の日程に現実的に寄与するものと考察する。

U23男子カテゴリーも2005年から導入する。

**SHIMANO****勝つための選択**
**SPD**  
 SHIMANO PEDALING DYNAMICS

株式会社シマノ 〒590-8577 堺市老松町3丁77番地 「お客様相談窓口」 電話 072-243-2829  
 当社の自転車部門の製品カタログご希望の方は、「カタログ希望」と明記し、300円切手同封の上、  
 〒590-0944 堺市柳屋町東1-1-1「シマノクラブPRセンター」宛にご郵送下さい。  
 シマノ自転車製品は、インターネットホームページ <http://cycle.shimano.co.jp> でもご覧になれます。

乗車したまま走りきるコースレイアウトがマウンテンバイクレースの世界的な流れになっています。シマノはよりペダリングを重視したSPDシューズ&ペダルをそろえています。

高強度カーボンソール搭載  
軽量シューズ

SH-M220  
¥17,800  
標準小売価格(税別)



泥ハケ性能  
ステップイン&アウト  
フィーリングを  
大幅に向上

PD-M959  
¥13,700  
標準小売価格(税別)



2002 ロード・トラック・ランキング (9月現在)

[ロードレース]

男子エリート・ロードレース

E	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	鈴木 真理	JPCA	E	P	5,377.6
2	狩野 智也	JPCA	E	P	4,926.3
3	岡崎 和也	JPCA	E	P	4,742.0
4	今西 尚志	京都	E	m	4,182.7
5	飯島 誠	JPCA	E	P	3,698.6
6	新保 光起	JPCA	E	P	3,426.3
7	広瀬 敏	石川	E	P	2,978.2
8	真鍋 和幸	JPCA	E	P	2,561.0
9	田中 光輝	愛知	E	m	2,496.9
10	西村 拓也	京都	E	P	2,012.7
11	行成 秀人	岡山	E	P	1,830.4
12	阿部 良之	JPCA	E	P	1,815.2
13	日置 大介	兵庫	E	P	1,794.5
14	水谷 壮宏	JPCA	E	P	1,597.3
15	渋谷 淳一	JPCA	E	P	1,597.1
16	中川康二郎	茨城	E	m	1,566.0
17	山本 雅道	神奈川	E	P	1,554.4
18	柿沼 章	JPCA	E	P	1,449.8
19	江下健太郎	愛知	E	P	1,360.5
20	大内 薫	大阪	E	P	1,336.5
21	坂口 博	愛知	E	P	1,297.1
22	福島 晋一	JPCA	E	P	1,256.3
23	秋田 謙	愛知	E	P	1,220.9
24	岡田 哲也	JPCA	E	P	1,111.8
25	藤野 智一	JPCA	E	P	1,072.0
26	長野 耕治	愛媛	E	P	1,066.4
27	別府 匠	神奈川	E	P	1,011.5
28	西谷 雅史	東京	E	m	943.2
29	鈴木 新史	JPCA	E	P	935.7
30	矢澤 真幸	京都	E	P	905.7
31	広瀬 学	石川	E	m	903.0
32	高橋 栄光	岩手	E	P	823.3
33	飯島 規之	JPCA	E	P	800.0
34	森 正和	静岡	E	P	699.8
35	橋川 健	JPCA	E	P	698.4
36	山代 恭崇	JPCA	E	P	672.0
37	田中 泰治	北海道	E	P	641.4
38	榊井 幹雄	JPCA	E	P	600.0
39	本間 啓介	山形	E	m	548.5
40	高橋 祐介	栃木	E	P	544.4
41	飯田 輝男	茨城	E	P	525.0
42	西村 拓朗	京都	E	P	508.2
43	中井 健二	JPCA	E	P	480.0
44	棟久 明博	山口	E	P	469.9
45	小林 太樹	大阪	E	m	466.2
46	高橋 秀秋	秋田	E	P	453.5
47	三浦 恭資	JPCA	E	P	451.2
48	児玉 利文	JPCA	E	P	440.0
49	辻 俊行	大阪	E	P	416.7
50	鈴木 雷太	長野	E	P	415.1

男子U23・ロードレース

U	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	品川 真寛	京都	U	P	1,989.2
2	盛 一大	茨城	U	P	1,823.7
3	西谷 泰治	広島	U	P	1,617.7
4	岩本 竜太郎	広島	U	P	1,603.4
5	圃谷 崇	福島	U	P	1,365.6
6	和野内 公次	大阪	U	P	1,306.3
7	清水 良行	岡山	U	P	1,177.9
8	石田 哲也	愛知	U	P	1,130.2
9	山本 敬純	大阪	U	P	1,075.4
10	吉井 淳	広島	U	P	1,058.8
11	小野寺 孝太	岩手	U	P	1,049.1
12	上田 誠	奈良	U	P	979.7
13	辻浦 圭一	奈良	U	P	941.7
14	小林 誠	滋賀	U	P	935.4

U	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
15	鈴木 謙一	静岡	U	P	904.9
16	普久原 奨	沖縄	U	P	880.2
17	河野 通明	東京都	U	P	861.3
18	辻 龍一	大阪	U	P	831.4
19	小笠原 豪	青森	U	P	806.6
20	内山 靖樹	大阪	U	P	798.0
21	郡山 善貴	岐阜	U	P	756.5
22	辻 貴光	京都	U	P	735.8
23	土井 雪広	山形	U	P	687.7
23	渡邊 哲平	京都	U	P	687.7
25	室井 祐介	愛知	U	P	667.5
26	平井 信昭	兵庫	U	P	656.5
27	明珍 多久雄	福島	U	P	643.2
28	別府 史之	神奈川	U	P	600.0
29	向川 尚樹	大阪	U	P	572.0
30	浅野 英明	大阪	U	P	537.2

男子ジュニア・ロードレース

J	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	池田 丈志	奈良	J	P	1,594.9
2	西村 光太	三重	J	u	1,185.5
3	天沼 雅貴	北海道	J	P	946.3
4	辻 善光	京都	J	P	837.3
5	小岩 大介	大分	J	P	815.1
6	村上 純平	山形	J	P	804.9
7	松村 光浩	和歌山	J	P	797.1
8	中島 康晴	福井	J	P	787.8
9	谷垣 雄基	京都	J	P	703.3
10	立里 匡道	山形	J	P	659.7
11	長沼 隆行	埼玉	J	P	631.1
12	長 義幸	和歌山	J	P	582.1
13	小椋 康寛	岐阜	J	s	577.8
14	笹原 裕	山形	J	P	566.3
15	畑中 勇介	東京	J	P	549.3
16	大村 寛	鹿児島	J	P	445.1
17	小野 哲裕	神奈川	J	P	445.0
18	山田 賢	神奈川	J	P	438.5
19	熊谷 薫	福島	J	P	434.6
20	島田 真琴	東京	J	u	429.9
21	舟木 誠	福島	J	P	416.0
22	吉次 裕司	山口	J	P	396.6
23	成田 将平	青森	J	P	384.3
24	児玉 規英	東京	J	P	370.8
25	寺川 慧	広島	J	P	370.7
26	柿本 勇介	大分	J	P	368.6
27	前田 雅則	和歌山	J	P	367.4
28	三浦 光誠	山形	J	P	352.9
29	櫻井 透	神奈川	J	s	336.2
30	池田 良	広島	J	u	333.3

女子・ロードレース

F	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	中村 珠藻	奈良	U	P	3,516.5
2	大塚 歩	栃木	E	P	3,120.0
3	杉村 久美	岩手	E	P	3,025.0
4	西 加南子	千葉	E	P	2,835.5
5	村中 恵美子	東京	E	P	2,754.5
6	大塚 恵美	東京	U	P	2,389.0
7	小野山 恵美	愛媛	E	P	2,119.5
8	許斐 真由子	鹿児島	U	P	2,045.5
9	坂井 田理沙	青森	U	P	1,607.0
10	唐見 実世子	石川	E	P	1,523.5
11	坂田 佳子	兵庫	E	P	1,500.0
12	斎藤 綾	秋田	U	P	1,428.0
13	前川 康子	奈良	U	P	1,225.4
14	塩原 桂子	東京	E	P	1,196.5
15	小高 セツコ	埼玉	E	P	1,171.4
16	中山 朋子	神奈川	E	P	1,084.1
17	沖 美穂	JPCA	E	P	1,000.0
18	木村 清香	福井	E	P	960.5
19	山口 麻理子	福井	E	P	932.5
20	小野 翔子	栃木	J	P	896.9
21	松永 舞美	香川	U	P	789.0

F	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
22	伊与田 尚加	静岡	E	P	772.9
23	林 佐知子	東京	E	P	769.0
24	佐藤 智子	福島	E	P	665.5
25	福森 智子	三重	E	P	620.0
26	小谷 翠	愛媛	E	P	597.3
27	志村 みち子	長野	E	P	571.8
28	永田 萌子	大分	J	P	540.0
29	佐々木 美恵	福井	E	P	527.8
30	兼子 明子	鹿児島	E	P	449.1

[トラックレース]

男子エリート・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	在本 直樹	岡山	E	P	2,810.0
2	竹沢 浩司	富山	U	P	1,290.0
3	村上 義弘	JPCA	E	P	1,196.0
4	大森 慶一	北海道	U	P	1,000.0
5	篠原 忍	群馬	U	P	872.0
6	伏見 俊昭	JPCA	E	P	840.0
7	井上 昌己	JPCA	E	P	800.0
8	稲村 成浩	JPCA	E	P	672.0
9	池田 憲昭	香川	U	P	649.2
10	三宅 達也	岡山	E	P	602.0

男子エリート・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	青木 亮太	群馬	U	P	1,739.5
2	金子 貴志	JPCA	E	P	1,672.0
3	湯原 正行	長野	E	P	1,427.0
4	櫻山 新太郎	福岡	U	P	1,090.0
5	前反 祐一郎	JPCA	E	P	840.0
6	伊勢崎 彰大	JPCA	E	P	800.0
7	久富 武	JPCA	E	P	750.0
8	上吹越 直樹	JPCA	E	P	696.0
9	篠原 忍	群馬	U	P	667.0
10	長塚 智広	JPCA	E	P	650.0

男子エリート・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	黒木 裕介	宮崎	U	P	2,723.5
2	浦門 義人	兵庫	E	P	1,742.0
3	佐々木 孝司	JPCA	E	P	1,490.0
4	坂口 博	愛知	E	P	1,485.0
5	飯島 規之	JPCA	E	P	1,472.0
6	伊藤 太一	山梨	U	P	1,262.0
7	諸橋 愛	JPCA	E	P	746.0
8	高橋 栄光	岩手	E	P	718.0
9	飯島 誠	JPCA	E	P	686.0
10	清水 良行	岡山	U	P	609.0

男子エリート・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	西谷 泰治	広島	U	P	2,430.0
2	高島 豪	埼玉	U	P	1,474.0
3	窓場 加乃敏	JPCA	E	P	1,322.0
4	大塚 英伸	JPCA	E	P	1,191.0
5	飯島 誠	JPCA	E	P	972.0
6	坂口 博	愛知	E	P	925.0
7	飯島 規之	JPCA	E	P	800.0
8	柴田 祐也	岐阜	U	P	755.2
9	岡本 健	和歌山	E	m	752.2
10	武藤 大輔	高知	E	P	672.0

## 男子エリート・ケイリン

KE	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	朝倉 佳弘	東京	U		1,808.0
2	櫻井 丈 静	岡山	U		1,310.0
3	塩原 正長	広島	E	m	1,148.0
4	吉田 康則	岡山	E	m	1,084.2
5	篠原 忍	群馬	U		902.0
6	山口 裕之	山形	U		713.2
7	石丸 健次	千葉	E	m	670.7
8	菊地 隼人	栃木	U		620.0
9	小堺 浩二	石川	U		590.0
10	小野 旭裕	兵庫	U		500.0

## 男子ジュニア・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	北津留 翼	福岡	J		3,190.0
2	前田 義和	鹿児島	J		1,312.5
3	屋良 朝春	沖縄	J	s	1,002.0
4	三澤 康人	宮城	J		841.0
5	疋田雄一朗	大分	J		816.0
6	吉松 賢二	群馬	J		642.2
7	須賀 和彦	茨城	J		485.2
8	松田 優一	茨城	J		303.0
9	寺田 信彦	大分	J	u	290.6
10	藤木 裕	京都	J		280.0

## 女子・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	篠崎 新純	千葉	J		2,852.0
2	遠藤 友子	大分	J		2,086.0
3	太刀川麻也	茨城	E		1,840.0
4	中尾 友美	奈良	U		1,732.0
5	大菅小百合	長野	U		1,000.0
6	仁藤ひろみ	静岡	U		955.0
7	伊東 静香	宮城	J		921.0
8	濱田 真子	東京	E		842.0
9	遠山 恵	岩手	E		806.1
10	大菅 淳子	長野	U		750.0

## 男子エリート・4000m速度競走

MS	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	浪岡 宜隆	宮城	E		170.0
2	西澤 弘治	青森	U		136.0
2	有賀 義文	埼玉	E	m	136.0
4	高橋 秀作	秋田	E		110.5
4	菅原 勝良	埼玉	E	m	110.5
6	千葉 浩	岩手	E	m	85.0
6	善波 昭	神奈川	E		85.0
8	岡田 淑行	新潟	U		64.6
8	八重樫健治	岩手	E	m	64.6
10	新坂 和弘	青森	U		47.6

## 男子ジュニア・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	白井 昌巨	岐阜	J		1,426.0
2	青木 康貴	岐阜	J		1,166.0
3	金澤 竜二	福島	J		981.0
4	熊谷 薫	福島	J		620.7
5	前田 雅則	和歌山	J		565.0
6	三瀧 光誠	山形	J		474.0
7	片折 勇輝	埼玉	J		418.6
8	吉田 裕全	埼玉	J		315.0
9	矢代 慎吾	富山	J		297.0
10	池田 丈志	奈良	J		293.1

## 女子・スプリント

SP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	遠藤 友子	大分	J		2,236.0
2	中尾 友美	奈良	U		1,982.0
3	太刀川麻也	茨城	E		1,840.0
4	篠崎 新純	千葉	J		1,672.0
5	伊東 静香	宮城	J		926.2
6	須藤 朋美	福島	J		803.0
7	藤原亜衣里	新潟	U		727.5
8	遠山 恵	岩手	E		613.2
9	仁藤ひろみ	静岡	U		479.0
10	埋田 麻衣	大分	J		400.0

## 男子プロ・ケイリン

KE	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	山田 裕仁	JPCA	E	P	1,000.0
2	山口 富生	JPCA	E	P	969.2
3	太田 真一	JPCA	E	P	917.6
4	齋藤登志信	JPCA	E	P	840.0
5	小橋 正義	JPCA	E	P	672.0
6	會田 正一	JPCA	E	P	546.0
7	堤 洋	JPCA	E	P	500.0
8	東出 剛	JPCA	E	P	420.0
9	星島 太	JPCA	E	P	235.2
10	新藤 敦	JPCA	E	P	168.0

## 男子ジュニア・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	三瀧 光誠	山形	J		1,364.0
2	片山 智晴	岡山	J	s	1,362.2
3	坂本 昌宏	青森	J		1,360.2
4	身崎 琢磨	宮城	J		1,307.8
5	小岩 大介	大分	J		1,090.5
6	中島 康晴	福井	J		1,027.0
7	松村 光浩	和歌山	J		724.6
8	立里 匡道	山形	J		520.0
9	池田 丈志	奈良	J		400.0
10	桐本 祥吾	岐阜	J		343.7

## 女子・個人追抜競走

IP	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	杉村 久美	岩手	E		2,385.0
2	斎藤 綾	秋田	U		2,312.0
3	村中恵美子	東京	E		1,779.5
4	大塚 歩	栃木	E		1,550.0
5	許斐真由子	鹿児島	U		1,142.7
6	越後 祥子	青森	J		757.0
7	中村 珠藻	奈良	U		725.2
8	須藤 朋美	福島	J		718.7
9	松尾 亜美	大分	J		692.0
10	木村 春恵	青森	U		672.0
10	唐見実世子	石川	E		672.0

## 男子ジュニア・タイムトライアル

TT	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	橋本 強	愛媛	J		2,116.0
2	須賀 和彦	茨城	J		1,262.0
3	白井 昌巨	岐阜	J		1,197.7
4	甲斐 康昭	群馬	J		975.8
5	川村 崇	東京	J	s	971.0
6	北津留 翼	福岡	J		640.0
7	金澤 竜二	福島	J		447.0
8	小倉 知幸	福島	J	s	443.2
9	早坂 秀悟	宮城	J	u	417.0
10	屋良 朝春	沖縄	J	s	356.0

## 男子ジュニア・4000m速度競走

MS	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	竹山 陵太	宮城	J		638.0
2	小野 哲裕	神奈川	J		615.5
3	佐藤 幸治	秋田	J		466.0
4	柿本 勇介	大分	J		429.2
5	藤野 孝彦	佐賀	J	u	318.6
6	川瀬 雅之	岐阜	J		271.6
7	守澤 太志	秋田	J		182.0
8	天沼 雅貴	北海道	J		140.0
8	笠嶋 誠	福井	J		140.0
8	橋本 勇人	和歌山	J	u	140.0
8	益岡 健二	岡山	J		140.0
8	福島 武士	香川	J		140.0

## 女子・ポイントレース

PR	氏名	所属	Ca.	Cl.	Point
1	大塚 歩	栃木	E		2,630.0
2	斎藤 綾	秋田	U		2,254.0
3	杉村 久美	岩手	E		1,541.2
4	坂井田理沙	青森	U		1,510.0
5	松永 舞美	香川	U		1,268.7
6	許斐真由子	鹿児島	U		886.8
7	中村 珠藻	奈良	U		809.4
8	大塚 恵美	東京	U		748.0
9	木村 春恵	青森	U		546.0
10	森本 朱美	鳥取	E		526.0

.....  
 ・ エリート: E(プロ:EP、マスター:Em) .....  
 ・ アンダー-23: U .....  
 ・ ジュニア: J(15才:Ju、18才で1~3月生:Js) .....  
 .....

# 競技大会 結果

大会名・チーム名等については略して記載

MTBｼﾞﾊﾞﾊﾟﾝｼﾘ-ｽﾞ J1ｷｬﾐﾝｸﾞ XC#8/DH#4  
(9/21-22 青森・ｷｬﾐﾝｸﾞ)

XCｸﾘｰﾄ男子 (33.0km)

- 1 山口 孝徳 長野 MX/MON. 1:53:45.60
- 2 竹谷 賢二 千葉 FORD/SP1:56:00.96
- 3 野口 忍 京都 TREK 1:58:02.47
- 4 色川 浩樹 茨城 GIANT J 1:58:31.60
- 5 小平 幸永 長野 ｷﾞﾗﾝﾄﾞ 1:59:18.18
- 6 白石 真悟 大阪 大阪大学 1:59:35.39
- 7 小笠原崇裕 長野 TREK 2:00:32.33
- 8 柴田 富夫 長野 JAMIS 2:01:17.36
- 9 鈴木 雷太 長野 ｸﾞﾗﾝﾄﾞｽﾄﾝ 2:01:48.54
- 10 松本 駿 長野 GT J. 2:01:48.91

XCｸﾘｰﾄ女子 (22.0km)

- 1 中込由香里 長野 SY-Nak 1:33:45.24
- 2 高橋いづみ 東京 SY-Nak 1:34:12.91
- 3 真下 正美 神奈川 SY-Nak 1:38:25.00
- 4 深井 薫 大阪 FUN RIDE 1:46:10.31
- 5 田近 郁美 岐阜 GOD HILL -1lap
- 6 田中 裕子 長野 Q-MAX ACE -1lap
- 7 伊藤真里子 京都 TEAM ｽﾄﾝ -1lap
- 8 内田 順子 東京 SY-Nak -1lap
- 9 篠崎奈緒子 埼玉 ARAI-MURACA -1lap
- 10 伊藤 幸恵 愛知 -2laps

DHｸﾘｰﾄ男子 (1.7km)

- 1 井手川直樹 広島 ｸﾞﾗﾝﾄﾞ 2:26.05
- 2 塚本 岳 埼玉 MX/MONG. 2:29.08
- 3 金子 大作 北海道 YRS-ANC 2:31.24
- 4 竹本 将史 埼玉 ｸﾞﾗﾝﾄﾞｽﾄﾝ 2:31.49
- 5 内嶋 亮 東京 A&F SANTA 2:34.25
- 6 安達 靖 大阪 Cannond 2:34.26
- 7 向原 健司 大阪 KUWAHARA 2:34.82
- 8 丸山由紀夫 愛知 MOM&pop's 2:36.79
- 9 高橋 唯之 福島 MX/SPEED 2:37.05
- 10 大島 礼治 兵庫 GIANT J. 2:37.29

DHｸﾘｰﾄ女子 (1.7km)

- 1 末政 実緒 兵庫 TREK/VW 2:53.88
- 2 猪俣 浩子 神奈川 FOES/CRE. 3:11.11
- 3 増田 まみ 千葉 X-TRAIL 3:11.71
- 4 渡辺 ｷﾞﾗﾝﾄﾞ 長野 CANNONDALE 3:16.57
- 5 藤中 治子 京都 KUWAHARA 3:34.16
- 6 池田 恭子 東京 FFC/HOT 3:43.44
- 7 松田 恵美 東京 MX/MONG. 4:06.04
- 8 大西 雅美 兵庫 YRS-ANC 4:09.80
- 9 芦澤ひとみ 東京 Team KHS 4:12.33
- 10 久保 行子 東京 CREAM GR. 4:15.67

第8回ｷﾞﾗﾝﾄﾞ ｻｲｸﾙ-ﾄﾞｰﾚｽ大潟大会  
(9/22 秋田・大潟ﾗｰｽﾞ-ﾄﾞｰﾚｽ)

男子ｸﾘｰﾄ U23 (93.00km)

- 1 本間 啓介 山形 二輪倶 2:16:52.863

- 2 伊藤 博人 秋田 SHOWA 2:16:53.114
- 3 千葉 浩 岩手 ｽﾄﾝ 2:16:55.282
- 4 大内 貴宗 宮城 ｷﾞﾗﾝﾄﾞ 2:17:02.087
- 5 長谷川嘉男 神奈川 HYC 2:17:10.145
- 6 田中館 拓 岩手 2:17:32.968
- 7 本間 政則 秋田 2:17:59.281
- 8 齋藤 道明 福島 ｷﾞﾗﾝﾄﾞ 2:17:59.938
- 9 八重樫健治 岩手 ｷﾞﾗﾝﾄﾞ 2:18:00.776
- 10 石田 卓也 山形 VC福島 2:18:00.817

男子ｼﾞｭニア1組 (93.00km)

- 1 今野 裕紀 秋田 能代西高 2:14:31.771
- 2 佐藤 幸治 秋田 六郷高校 2:14:33.023
- 3 立里 匡道 山形 山形電波 2:14:33.999
- 4 宗前 裕太 青森 八戸工高 2:16:04.448
- 5 守澤 太志 秋田 大曲農高 2:21:16.952
- 6 村上 純平 山形 山形電波 2:21:22.037
- 7 仲村 淳 秋田 大曲農高 2:22:52.322
- 8 本柳 勇樹 福島 岩瀬農高 2:22:55.364
- 9 佐々木幸二 宮城 古川工高 2:22:56.671
- 10 高橋 康彦 山形 山形電波 2:22:56.950

男子ｼﾞｭニア2組 (93.00km)

- 1 田村 史彦 秋田 大曲農高 2:27:24.504
- 2 清水 一平 秋田 大曲農高 2:27:40.449
- 3 和田 圭 宮城 古川工高 2:28:12.319
- 4 仲村 天晴 秋田 大曲農高 2:28:13.134
- 5 根本 哲吏 秋田 大曲農高 2:28:13.341
- 6 高橋 公大 秋田 六郷高校 2:28:13.566
- 7 関根 友彦 福島 岩瀬農高 2:28:13.817
- 8 石崎 洋平 秋田 六郷高校 2:28:13.849
- 9 佐藤 誠朗 秋田 大曲農高 2:28:13.881
- 10 湯坐 純 福島 東白川農 2:28:14.470

男子ｼﾞｭニア3組 (93.00km)

- 1 植村 翼 秋田 六郷高校 2:41:15.960
- 2 武田 行平 秋田 六郷高校 2:41:16.747
- 3 拜原 和知 福島 東白川農 2:41:16.846
- 4 井上 卓 秋田 六郷高校 2:41:16.943
- 5 星 幸太郎 宮城 古川商高 2:41:17.183
- 6 房州 輝也 福島 平工業高 2:41:17.194
- 7 三浦 雄大 宮城 古川工高 2:41:17.410
- 8 村上 哲也 宮城 古川工高 2:41:17.525
- 9 江田 陽治 福島 東白川農 2:41:17.696
- 10 加藤 圭太 秋田 大曲農高 2:41:18.240

女子 (62.00km)

- 1 杉村 久美 岩手 ｽﾄﾝ 1:42:43.252
- 2 中山 朋子 神奈川 ｽﾄﾝ 1:42:43.471

第38回全日本学生新人戦西日本大会  
(9/22 滋賀・大津びわこ競輪場)

女子500mﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

- 1 梅野 敦子 同志社大学 42.93
- 2 石川理久子 中京大学 43.64

ｽﾌﾟﾘｯﾄ

- 1 的場 俊輔 桃山学院大学
- 2 古賀 啓一 京都大学
- 3 相原 章吾 北陸大学
- 4 安田 篤史 中京大学
- 5 三浦 司 北陸大学
- 6 白石 悠 京都大学

1kmﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

- 1 辻 龍一 京都産業大学 1:12.19
- 2 島田 迅人 大阪経済大学 1:13.10
- 3 吉川 修司 龍谷大学 1:13.12
- 4 小川 真弘 名古屋産業大学 1:14.52

- 5 古市 清隆 北陸大学 1:15.59
- 6 新下 真悟 京都産業大学 1:22.50

4km個人追抜競走

- 1 清水 良行 京都産業大学 5:01.10
- 2 矢野 泰弘 大阪経済大学 5:15.32
- 3 奥田 雄一 京都産業大学 5:13.77
- 4 高橋 晋司 京都大学 5:15.66
- 5 佐藤 公威 立命館大学 5:23.26
- 6 西田 高宏 桃山学院大学 5:25.72

ｸﾞﾗﾝﾄﾞ

- 1 山我 宗永 北陸大学
- 2 大石容支夫 名古屋産業大学
- 3 小塚 寛也 大阪経済大学
- 4 花井 太佑 北陸大学

ﾊﾞｲﾄﾞｰｽ (30km)

- 1 柏原 剛 立命館大学 42 p
- 2 櫻井 透 立命館大学 31 p
- 3 岩本竜太郎 京都産業大学 25 p
- 4 葛谷 琢磨 中京大学 15 p
- 5 向川 訓司 中京大学 14 p
- 6 谷 則男 大阪工業大学 9 p

第2回全日本実業団クリテリウムin神戸  
(9/23 兵庫・神戸ｽﾀｰﾄﾗｲﾝﾄﾞ)

BR-1 (70.0km)

- 1 西村 拓也 京都 ｶｶﾞﾘ 1:51:02:355
- 2 山本 雅道 神奈川 ｽﾄﾝ 1:51:02:799
- 3 阿部 良之 JPCA ｽﾄﾝ 1:51:02:812
- 4 水谷 壮宏 JPCA ｸﾞﾗﾝﾄﾞｽﾄﾝ1:51:04:235
- 5 岡崎 和也 JPCA 日本舗道1:51:04:444
- 6 今西 尚志 京都 ｽﾄﾝ 1:51:14:583
- 7 秋田 謙 愛知 愛三工業1:51:15:085
- 8 大内 薫 大阪 ｽﾄﾝ 1:51:15:097
- 9 渋谷 淳一 JPCA ｸﾞﾗﾝﾄﾞｽﾄﾝ1:51:15:210
- 10 田中 光輝 愛知 愛三工業1:51:15:723

BR-2 (49.0km)

- 1 向川 尚樹 大阪 SHIMONO1:21:44:722
- 2 森 真博 香川 SHIMONO1:21:45:335
- 3 松井 久 大阪 ｽﾄﾝ1:21:53:110
- 4 塩貝 哲夫 兵庫 ｶｶﾞﾘ 1:21:53:206
- 5 清水 裕輔 埼玉 ｲｷﾝｸﾞ 1:21:53:343
- 6 山崎 敏正 大阪 ｷｰﾌﾟ 1:21:53:669
- 7 寺本 道彦 島根 ｽﾄﾝ 1:21:53:679
- 8 今井 靖治 京都 Zippyくずは1:21:53:844
- 9 天笠 辰一 岐阜 ｽﾄﾝ 1:21:53:861
- 10 石堂 大悟 広島 ｽﾄﾝ1:21:54:091

BR-3 (35.0km)

- 1 金井 慎次 静岡 SPADE・A 59:19:846
- 2 大矢 繁 奈良 ｷﾞﾗﾝﾄﾞ 59:19:899
- 3 酒井 紀章 福井 BALBA 59:20:066
- 4 杉澤 康之 三重 ｶｶﾞﾘ 59:21:359
- 5 中島 浩二 愛知 ｻｲｸﾙ 59:43:888
- 6 斉藤 寛 山梨 ｽﾄﾝ 59:44:020
- 7 大野二美雄 東京 SPLENDOR 59:44:392
- 8 宇井 賢司 福井 BALBA 59:44:691
- 9 足立 卓也 奈良 ｶｶﾞﾘ 59:44:699
- 10 Mark Barns 石川 ｸﾞﾗﾝﾄﾞ 59:44:917

女子 (35.0km)

- 1 関家 朋子 東京 ｽﾄﾝ 1:02:12:386
- 2 山口麻理子 福井 BALBA 1:02:12:616
- 3 坂田 佳子 兵庫 POLPO 1:03:48:310
- 4 木村 清香 福井 BALBA 1:07:18:461
- 5 小谷 翠 愛媛 NCFR 1:07:52:715

- 6 濱田 真子 東京 ヲノ和 1:07:53.331
- 7 佐々木美恵 福井 BALBA 1:07:54.132

MTBジャパンシリーズ J2夜越山XC/DH  
(9/28-29 青森・平内)

XC男子 (33.0km)

- 1 山本 和弘 北海道 GAS PANIC 1:40:44.48
- 2 橋田淳一郎 東京 1st 1:42:05.31
- 3 柴田 富夫 長野 JAMIS 1:45:14.31
- 4 影山 善明 茨城 わがロード 1:46:43.69
- 5 菅間 圭介 宮城 奥州 1:47:08.36
- 6 山本 幸平 北海道 KBC カマダ 1:47:30.81
- 7 山辺 誠司 埼玉 ビーレオ 1:48:11.79
- 8 橋本憲太郎 埼玉 C.W.S 1:48:16.71
- 9 須藤 大輔 千葉 YUKIRIN 1:48:47.03
- 10 水野 善和 岩手 Celeste/1st 1:49:35.92

XCリトスル女子 (16.5km)

- 1 二見万里子 東京 bbs.mtb 1:10:19.02
- 2 山本 萌 北海道 ダンガリー 1:11:04.78
- 3 小幡 直子 神奈川 SY-Nak 1:11:14.56

DHリト男子 (1.42km)

- 1 竹本 将史 埼玉 プリースト 2:14.27
- 2 相坂信二郎 東京 FORD/SPE. 2:22.75
- 3 菅原 義広 栃木 TEAM菅原 2:25.39
- 4 及川 功申 岩手 TECH IN LA. 2:26.29
- 5 佐々木善典 岩手 岩手EXTRE. 2:26.91
- 6 高橋 唯之 福島 MX/SPEED 2:27.28
- 7 関 誠利 宮城 SEKIみちのく 2:28.20
- 8 三瓶 敏彦 福島 GTみちのく 2:28.88
- 9 今中 伸介 山梨 INTER MAX 2:29.42

DHリト女子 (1.42km)

- 1 池田 恭子 東京 FFC/HOT 2:49.34
- 2 福本 弘佳 兵庫 輪娛ロード 2:52.11
- 3 服部 良子 神奈川 風魔横浜カワ 3:14.38
- 4 及川 由希 岩手 岩手1stチーム 3:17.85

第6回全日本実業団クリテリウムinいわき  
(9/29 福島・いわき)

BR-1 (50.0km)

- 1 藤野 智一 JPCA プリースト 1:16:47
- 2 今西 尚志 京都 シルベリング 1:16:47
- 3 鈴木 太地 神奈川 ミヤカビル 1:16:48
- 4 秋田 謙 愛知 愛三工業B 1:16:50
- 5 大内 薫 大阪 シルベリング 1:16:51
- 6 山本 雅道 神奈川 シルベリング 1:16:51
- 7 橋川 健 JPCA プリースト 1:16:51
- 8 高橋 栄光 岩手 ミタカ和 1:16:51
- 9 坂口 博 愛知 愛三工業A 1:16:51
- 10 品川 真寛 京都 ミヤカビル 1:16:51

BR-2 (42.9km)

- 1 高橋 仁 JPCA フェビウス 1:09:37
- 2 本田 雅昭 東京 YUKIRIN 1:09:42
- 3 天笠 辰一 岐阜 ミタカ和 1:09:42
- 4 安原 興志 東京 たかだフルト 1:09:42
- 5 今井 靖治 京都 Zippyくずは 1:09:42
- 6 池田勝之助 東京 SPLENDOR 1:09:42
- 7 町田 広 埼玉 へー/A&Tマダ 1:09:42
- 8 杉澤 康之 三重 カガワFET 1:09:42
- 9 飯野 嘉則 東京 ミタカ和 1:09:42
- 10 小口 英之 栃木 リアルTBC 1:09:42

BR-3 (35.8km)

- 1 小室 雅成 山梨 ミカレシングチーム 59:59
- 2 石田 卓也 山形 ヲノ和 1:00:00

- 3 石黒 大樹 山形 ヲノ和 1:00:00
- 4 八重樫健治 岩手 フェビウス 1:00:00
- 5 高野 真一 山梨 チーム・リアーザ 1:00:00
- 6 高田 雄二 東京 たかだフルト 1:00:00
- 7 西澤 亮太 山梨 ルー・レーシング 1:00:00
- 8 山口 公一 東京 GOODWHEEL 1:00:00
- 9 班目真紀夫 福島 フェビウス 1:00:00
- 10 横須賀達雄 神奈川 たかだフルト 1:00:01

BR-1団体成績

- 1 シルベリング 今西・大内・山本 13 p
- 2 ミヤカビル 鈴木・品川・中川 25 p
- 3 愛三工業A 坂口・田中・新保 35 p

BR-2団体成績

- 1 ミタカ和 天笠・飯野 12 p
- 2 シルベリングチーム 野田・斉藤 25 p
- 3 たかだフルト 安原・小泉 28 p

第38回全日本学生新人戦東日本大会  
(9/29 埼玉・西武園競輪場)

スプリント

- 1 牧野真彦 東北学院大学
- 2 園田 鉄兵 北海学園北見大学
- 3 吉田 暁弘 東京大学
- 4 吉田 将成 日本大学
- 5 花澤 純二 明治大学
- 6 山口 泰史 日本大学

1kmタイムトライアル

- 1 前田 吉昭 日本大学 1:10.14
- 2 川村 崇 早稲田大学 1:10.35
- 3 小倉 知幸 中央大学 1:10.64
- 4 西村 尚文 日本大学 1:10.83
- 5 水野 悟志 法政大学 1:11.06
- 6 小林 彰夫 中央大学 1:12.27

4km個人追抜競走

- 1 高島 豪 中央大学 5:03.52
- 2 親川 泰典 明治大学 5:09.11
- 3 大野 涼太 中央大学 5:05.41
- 4 糸賀 賢司 日本大学 5:06.04
- 5 片山 智晴 法政大学 5:10.43
- 6 篠原 忍 中央大学 5:11.67

ポイントレース (30km)

- 1 盛 一大 日本大学 52 p
- 2 明珍多久雄 日本大学 45 p
- 3 平林 大宜 早稲田大学 27 p
- 4 明珍 周兵 法政大学 22 p
- 5 伊藤 太一 日本大学 11 p
- 6 佐々木正美 日本大学 7 p

ケリソ

- 1 柴田 祐也 法政大学
- 2 菊地 隼人 日本大学
- 3 櫻山新太郎 日本大学
- 4 工藤 大輔 東北学院大学
- 5 和田 健次 東北学院大学
- 6 佐野 伸弥 法政大学

MTBジャパンシリーズ J1瀬女DH#5  
(10/5-6 石川・瀬女)

DHリト男子 (3.65km)

- 1 竹本 将史 埼玉 プリースト 5:16.57
- 2 安達 靖 大阪 Cannond 5:17.77
- 3 丸山 弘起 長野 GT japan 5:18.35
- 4 井手川直樹 広島 グローバルR. 5:19.60
- 5 大島 礼治 兵庫 GIANT J. 5:21.47

- 6 丸山由紀夫 愛知 MOM&pop's 5:21.90
- 7 加納慎一郎 山梨 www.ir-jp.co 5:23.19
- 8 河合 暁延 愛知 mom&pop's 5:24.68
- 9 向原 健司 大阪 KUWAHARA 5:25.58

DHリト女子 (3.65km)

- 1 渡辺 キャリ 長野 CANNONDALE 6:22.16
- 2 猪俣 浩子 神奈川 FOES/CRE. 6:33.25
- 3 久家 麻妃 岐阜 DD BIKES 7:01.69
- 4 福本 弘佳 兵庫 輪娛ロード 7:05.40
- 5 池田 恭子 東京 FFC/HOT 7:10.35
- 6 藤中 治子 京都 KUWAHARA 7:18.91
- 7 杉山 美佐 静岡 DD BIKES 7:21.44
- 8 大西 雅美 兵庫 YRS-ANC 7:41.44
- 9 芦澤ひとみ 東京 Team KHS 7:42.00
- 10 服部 良子 神奈川 風魔横浜カワ 7:51.05



2002マウンテンバイク  
ジャパンシリーズ閉幕

XC 竹谷 賢二・中込由香里  
DH 塚本 岳・渡辺キャリー  
がシリーズ総合優勝



9月22日から23日の日程で2002年JCFMTBジャパンシリーズ最終戦が青森市・モヤヒルズスキー場にて開催された。また来年9月に本会場にて2004年アテネオリンピックの参加枠をかけて注目されるであろうアジア選手権大会が開催される。

2002年のジャパンシリーズは9月に予定されていた安比大会が中止となったが、代替大会として10月5日・6日に石川県瀬女でダウンヒルのみ行われ、J1大会がXC8戦、DH5戦、J2大会がXC3戦、DH1戦が開催された。

男子クロスカントリーエリートは、竹谷賢二(千葉)がJ1大会4大会優勝も含め、2位の山口孝徳(埼玉)を10ポイント差で押さえシリーズチャンプの輝いた。また、女子エリートでは中込由香里(長野)が着実にポイントを重ねシリーズチャンプに輝いた。

ダウンヒルでは、男子ダウンヒルエリートは塚本 岳(埼玉)が、女子は渡辺キャリー(長野)がシリーズチャンピオンに輝いた。

## 訃報

本連盟強化委員会  
医科学委員  
三重野寛治氏

9月14日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

2002年世界室内自転車競技選手権  
日本代表選手団のお知らせ

大会期間 10月25日～27日  
派遣期間 10月20日～30日  
大会会場 オーストリア・ドルンビルン  
派遣選手団  
監督 妙中 義之  
選手 サイクルサッカー  
都築 勝巳・松田 鋼  
宮本 武彦・木下 直也  
サイクルフィギュア  
佐浦 裕行・堀井 和美  
小野寺千春

## 第3回チャレンジ・ザ・オリンピック

10月20日、日本CSC250mトラックにおいてJCF主催の第3回チャレンジ・ザ・オリンピックが開催された。以下各種目1位の選手名とタイム。

女子3kmタイムトライアル	
大塚 歩	4:01.283
男子3kmタイムトライアル	
青木 康貴	3:47.251
男子4kmタイムトライアル	
内田 慶	4:47.496
250mタイムトライアル	
岡本 大嗣	18.740
500mタイムトライアル	
岡 希美	40.690
1kmタイムトライアル	
矢口啓一郎	1:05.002
女子200mフライングタイムトライアル	
岡 希美	13.587
男子200mフライングタイムトライアル	
矢口啓一郎	10.667

## 日本新記録

500m

女子シニア 36秒030 大菅小百合 (長野・三協精機)

2002/10/4 韓国・釜山

## 連盟の動き (9月下旬～10月中旬)

- 9月21日 トラック世界選手権日本選手団出発(帰国 10/1) 於:デンマーク・コペンハーゲン  
25日 JOC アジア大会結団式(東京都・新高輪プリンスホテル)  
26日 ロード世界選手権日本選手団出発(帰国 10/15) 於:ベルギー・ゾルダー  
アジア大会ロード日本代表選手団出発(帰国 10/4) 於:大韓民国・釜山  
30日 アジア大会トラック日本代表選手団出発(帰国 10/9) 於:大韓民国・釜山  
10月3日 アジア大会MTB日本代表選手団出発(帰国 10/15) 於:大韓民国・釜山

## 事務局人事のお知らせ

平成14年10月1日付  
総務部 部長  
(旧) 田崎 昭司  
↓  
(新) 坪林 和美

## 編集後記

この号が発行される頃には世界選手権、ジャパンカップ、国体も終わり、ツール・ド・おきなわを残し今シーズンもシクロクロスや室内などを除いてほぼ終了、今年もあと2ヶ月となりました。今年も様々なスポーツのビッグイベントが開催されましたが、やはり国内で最大の話題といえば、6月に行なわれた日韓サッカー・ワールドカップでしょう。あの狂乱とも云うべきバカ騒ぎの後では、今年はオリンピックも開催されたということなど既に忘却の彼方ようです。

前回の私の編集後記(3月号)でオリンピックにおける審判問題に触れましたが、このワールドカップでも審判問題が大きな話題となりました。特にある特定の2試合に興味集中していたようですが、あれほどの騒ぎになる誤審(?)であったのかという気がしてなりません。あるニュース番組のキャスターなどは「何らかの救済措置を」などと真顔で訴えておりましたが、スポーツの試合において不利と出た判定に対し救済措置なんて言っていたら、競技が成り立たないということには頭が回らないようです。もっとも今回はFIFAが誤審(特定してはませんが)を認めるといってもない救済措置がありました。スポーツを主管する団体が審判の権威を貶めて、どうするつもりなのでしょうか。もっともワールドカップは選手にとって自分を高く売る大舞台であり、簡単に敗戦を認めるわけにはいかない選手側の利益を考慮したと言ったところでしょう。

スポーツのメジャーイベントはいまやとんでもない額の金銭が動き、それに群がるスポーツマフィアの数も増殖する一方で、選手の契約金は高騰し、正気の沙汰とは思えない収入を得る選手は「夢を与える額」などと詭弁を吐き、そのおこぼれを頂戴しようとマネージャーだのエージェントだの名乗る人間が跋扈して、選手に満足にインタビューも取れないというのがメジャーと呼ばれるスポーツの現状です。

ファンが選手に気軽にサインをもらうことができ、インタビューを取るのも比較的簡単である。そんな競技のどこに不満があるのでしょうか。メジャー化することだけが競技の発展に繋がるわけではない、そんなことを改めて感じさせたのが、あのイベントだったような気がします。

(村田 隆宣)



シクリスムエコー No.91 2002年10月号

発行/財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/岩 楯 昭一

編集人/村田 統司

編集事務局/財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL http://www.jcf.or.jp/